平成15年度　音楽科研究構想図

音楽科における子どもの実態

（自主性）
・課題に向かって主体的に学習しようとする姿勢に、個人差がある。
（創造性）
・明るい声で歌ったり、リズムに乗って楽器を演奏したり、表現活動を楽しむことができる。
（社会性）
・グループの友達と教え合いながら学習できるが、表現を工夫したり、高め合ったりする力が弱い。

学校の教育目標

心ゆたかに　たくましく生きる子
○よく考える頭　（創造性）
○進んで働く手足　（自主性）
○人もものも大切にする心（社会性）

研究主題

感動ある授業を求めて

～個に応じたきめ細かな指導で、学ぶ意欲、学び方、学び合いを育てることを通して～

音楽科において願う子どもの姿

（自主性）
・曲に対する願いやめあてを持ち、課題に向かって主体的に学習することができる。
（創造性）
・仲間と共に創る音楽の楽しさ（音が重なる響き、リズムがそろう面白さ、曲の盛り上がりなど）を味わうことができる。
（社会性）
・グループの友達と教え合い認め合いながら、表現を高めることができる。

音楽科で目指す授業

願いやめあてをもって、仲間と共に創る表現の楽しさや喜びを味わえる授業

具体的な手だて

学びたいという意欲（自主性）を育てるために	その子なりの学び方（創造性）を育てるために	仲間との学び合い（社会性）を育てるために
１人１人の子どもが、曲の美しさや良さに気づき「こんなふうに表現してみたい」と、願いやめあてをもてるようにする。	１人１人の子どもが「正しく演奏できて嬉しい」「表現することが楽しい」「もっと表現の工夫をしたい」と思えるようにする。	１人１人の子どもが仲間と共に創る音楽の楽しさや喜びを味わえるようにする。
【研究内容１】 一人一人の子どもが、目的意識を持ち続けることができる、**評価の在り方**。	【研究内容２】 一人一人の子どもが、自分なりの方法で課題を解決する事ができる、**個に応じた指導・援助の在り方**。	【研究内容３】 一人一人の子どもが、自分の見方や考え方、技能を高めることができる、**学習集団の在り方**。
○一人一人の子どもの**意欲につながる自己評価**を具体化する。 ○一人一人の子どもの**特性をつかむ教師の評価**を具体化する。	○一人一人の子どもの**特性に応じた指導・援助**を具体化する。 ○一人一人の子どもの**つまずきに応じた指導・援助**を具体化する。	○一人一人の子どもの**目的に応じた小集団づくり**を具体化する。 ○一人一人の子どもの**見方や考え方、技能が高まる学び合いの方法**を具体化する。
①次への意欲がもてるような自己評価をする。 ・ 表現の高まりや響きあう美しさが実感できる評価をする。（録音・振り返りカード・仲間からの評価） ・評価をもとに、さらに表現を高めるための課題作りをする。（「強弱を考えて表現したい」「リズム楽器の組み合わせを替えてみたい」「弾んだ曲の感じを生かして表現したい」など） **②課題に対する学習方法がよかったかなどの授業評価をする。** ・ 自己評価としてできたことやできなかったこととその理由を書いたり言わせたりしたことから授業評価とし、そこから学習の手立てを分析する。	**①子ども自分なりの考えや方法で課題追究ができるようにする。** ・演奏するパートや楽器など、自分で選択する場を設け、課題追究をする。 ・その子なりの表現の良さに気づき認め、他の子にも広めることを大切にする。 **②個のつまずきに応じたきめ細かな指導・援助** ・一人一人の習熟の様子やつまずきを把握する。 ・教材教具の工夫や振り返りカードによる見届けをする。 ・一人一人のつまずきに応じた解決方法の方向を示す。	**①課題追究に合う学習形態を工夫する。** ・ペア学習、グループ学習、パート学習、一斉学習など、効果的に課題追究できるよう学習形態を工夫する。 **②仲間と学び合い表現を工夫したり、高めたりする。** ・仲間の表現のよさに気づき、自分の表現に取り入れる活動を大切にする。 ・仲間の表現から感じたこと、考えたことを交流し合う場を大切にする。 ・仲間の表現を聴く視点を明らかにして、表現の良さや工夫に気づくことができるようにする。
音楽科の授業において大切にしていること		
○子どもが題材に対して願いや見通しが持てるようにする。 ・評価規準を明確にした題材の指導計画にする。 ・曲に対しての憧れをもたせたり、表現の良さに気付かせたりしながら、自分がどう表現したいのか願いやめあてを持たせる。 ・子どもの意識の流れや願いを大切にした課題作りをする。	**○子どもが音楽の学習の進め方を体得できるようにする。** ・毎時間のレパートリー合唱やレパートリー奏で基本的な能力の定着を図る。 ・自然で豊かな響きのある発声、楽器の基礎的な演奏法について繰り返し指導・援助する。	**○仲間と共に造る表現の楽しさに気付かせる。** ・音の重なりや響き、リズムがそろうおもしろさなどを体感できる場を意図的に設ける。